

東鎌尾根から槍ヶ岳

2012年5月3日(木)～5日(土)

L:坂野、大山(記)

1日目

入山日は雨。しかしひどい降りになることはなく、登って行くうちに晴れ間も出た。



合戦小屋手前で小休止を取った後、合戦の頭を過ぎてもリーダー坂野は止まらない。
(燕山荘まで行くつもりだ…)と悟ったとき、めまいがしそうだった。

合戦尾根は初めてというリーダー坂野。立ち止まり立ち止まりようやく辿り着いた
自分に言ったひと言は、「思ったよりも遠かったですね」

…見た目も十分遠かったよ。



燕岳はパス。燕山荘からの縦走路は夏道が出ていてアイゼンは要らないくらい。
蛙岩の岩場を通過した後、アイゼンを外す。

為衛門吊岩を通過した辺りの支尾根をビバーク地の見当にしていたがガスッていてよく分らず少し先のピーク付近に幕営した。雪の下は地面ではないが垂直に落ちているような場所でもなかったけれど、夕方から雨が降り始め、スラッシュ雪崩とか妄想が膨らんであまりよく眠れなかった。



2日目

ヒュッテ大槍くらいまで行く意気込みで2時に起床、4時出発。

夏道が出ているので暗くても迷うことなく大天井岳まで。そこから東鎌尾根方面へ方向を変える。大天井ヒュッテは屋根だけ見せて雪に埋もれている。ここから広大な斜面をトラバースしていく。



2ピッチ半くらいで赤岩岳。三角点があり懸垂の残置スリングが巻かれていた。ガレた凹角を懸垂で下りたようだが、前回こんな所に出た覚えはない。



赤岩岳へ登るリーダー坂野。夏道はピークの左側を巻いているようだ。



残置スリングで懸垂をしようとしたら三角点がグラグラ。這松の枝に付け替えて凹角を下りて行く。

西岳の山頂に立って一旦小屋の方へ下り、途中から斜面をトラバースして谷状を大きく下る。傾斜が強くなってきてバックステップに切り替えるが、先を行ったリーダー坂野のトレースの足の向きがおかしい。下りたところを見上げると「雪壁」と言っていっくらいの傾斜だ。なのになぜ足先が前を向いているのだろう…



西岳から下るといよいよ東鎌尾根が始まる。時々雪稜が細くなってバランスに注意しながら進み、前回撤退したコルからひとつ先に進んだところが水俣乗越だった。天上沢に下りて行くトレースが残っていた。尾根の途中から槍沢から来たと思われる8人組が現れ先行したが、自分たちは少し早いがここで行動終了。

テントの中に入った頃から雪が降り始め、夜通し降り続いた。



水俣乗越から先に進んで行く8人組。その先の雪稜は細く、幕営適地があるか不安。

3日目

3時起床。雪を押し返してテントを開き、テント周りを除雪する。昨日のトレースは埋まっていたが8人が踏んだトレースは雪の下でも心強い。しかし途中、右の小尾根に下りて行くトレースがあり、その先のトレースが不安定になったので、もしかすると8人組はその辺りで幕営していたかもしれない。



大半が雪稜歩きだが、2、3箇所、ハシゴが出てくる。特に下りでハシゴが複数あるときはつなぎの部分が緊張する。高度を上げるとガスの中に入ってしまう。上部は岩なども出てきて、槍沢からの声が近くに聞こえてくる。最後は槍の肩までのトラバース。これが雪面が固くて疲れた足にこたえた。

槍の肩まで、ずっとガスに巻かれて槍ヶ岳を見ることができなかったけど、猛烈な風の吹くなか、とうとう槍ヶ岳が姿を現した。



山行の仕上げに槍ヶ岳に登る。山頂からは大展望とまではいかないものの、展望にあまり恵まれなかった今山行一番の展望だったと思う。



リーダーをパチリ。

槍の肩に戻り、槍沢を下る。沢に入っても吹き降ろす風が強烈で、その風を真正面から受けて登ってくる人たちは大変そうだった。

バスに間に合うなら本日中に下山したいということでただひたすらに歩き、林道の最後は何度か立ち止まりながらバスターミナルに辿り着いた。

最終的に中房に戻って車を回収したのが21時半、温泉なしの寂しい帰路だった。

(タイム)

5月3日 中房駐車場 7:02 ~合戦小屋 10:36 ~燕山荘 11:50 ~蛙岩
13:15

~テント場 14:48

5月4日 テント場 3:41 ~大天井岳 5:24 ~赤岩岳 10:12 ~西岳 12:
01

~水俣乗越 13:56

5月5日 水俣乗越 4:55 ~ヒュッテ大槍 7:52 ~肩の小屋 9:02 ~槍ヶ岳

9 : 37

～槍沢口ツチ 12 : 05 ～横尾 13 : 47 ～上高地バスターミナル

16 : 43

以上